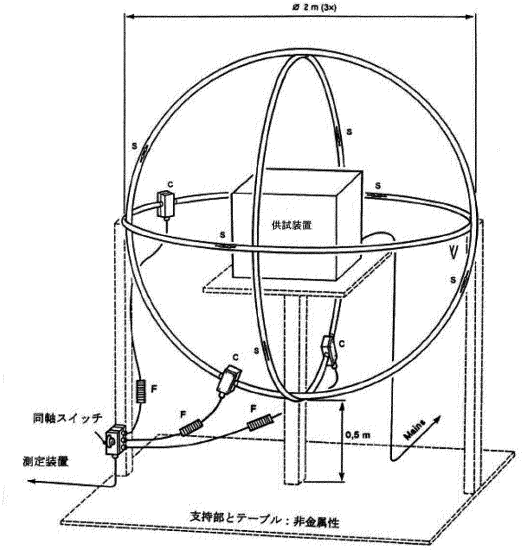
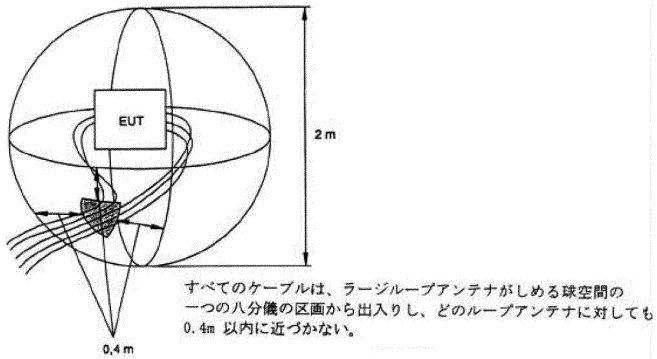
(5)　直径２メートルのループアンテナによる電流の測定	次の図のとおり装置を設置し、電源を投入し起動させてから５分経過後に測定する。 電流プローブを用いて三方向のループアンテナのそれぞれについて行う。  S＝アンテナスリット C＝電流プローブ F＝フェライト吸収体 ループアンテナシステム、３つの相互に直交するラージループアンテナで構成される ケーブル類は次の図のとおり一緒にして引き回し、直径２メートルのループアンテナが占める同一の八分儀区画から引き出し、どのループアンテナに対しても0.4メートル以内に近づかないように配置する。 
(6)　３メートル離れた地点での磁界強度	直径0.6メートルのループアンテナを接続した校正済みの磁界強度測定器により、次の手順により測定を行う。 ア　電源を投入し起動させてから５分経過後に最大の高周波出力で漏えい磁界強度を測定する。 イ　漏えい電波を受信したときは支持台及び受信アンテナを回転し、最大の測定値を求め、これをもつてその周波数の測定値とする。
(7)　不要発射による電界強度	空中線系を含め校正済みの電界強度測定装置により、次の手順により測定を行う。 ア　電源を投入し起動させてから５分経過後に、最大の高周波出力で電界強度を測定する。 イ　漏えい電波を受信したときは周波数ごとに、偏波面及び空中線の高さを変化させるとともに支持台を回転させ、電磁誘導加熱式調理器から10メートルの距離における最大値を測定する。 ただし、ケーブルを含めて直径1.2メートル、床から1.5メートルの円柱形の体積内に収まる設備に限り、３メートルの距離において測定することができる。
(8)　安全性	一般的な妥当性を有する方法により次の事項を確認する。 ア　絶縁抵抗値その他きよう体の絶縁状況 イ　電線の収容状況

別表第九号　試験成績書の様式（第46条の８関係）

第１　電子レンジ

確認番号	
型式名	

試　験　成　績　書

1 占有周波数帯幅	(1)　発振周波数	測定値	測定条件等	
	(2)　占有周波数帯幅	測定値		
2　高周波出力		測定値	測定条件等	
3 電源端子における妨害波電圧	測定値		測定条件等	
	周波数範囲	準尖頭値	平均値	
	(1)　150kHz以上500kHz未満			
	(2)　500kHz以上５MHz以下			
	(3)　５MHzを超え30MHz以下			
4　不要発射による磁界強度		測定値	測定条件等	